

氏名	袖川 芳之		
学位の種類	博士（経営管理）		
学位記番号	博乙第三号		
学位授与年月日	平成 28 年 9 月 16 日		
学位授与の要件	嘉悦大学学位規程第 6 条		
学位論文名	低欲望社会における消費社会の変貌に関する研究 ～「欲望」の構造から読み解く消費の多様化～		
論文審査委員	主査教授 跡田 直澄	副査教授 高橋 洋一	
	副査教授 上原 聡		

論文審査の結果の要旨

本論文は、デフレマインドが依然として続く中での消費活動の活性化策を模索し、消費概念の新たな理解を通して、次世代の消費社会像のあり方の提示を試みたものである。

古典的なものから比較的最近の文献にまでわたる消費論の展望を通して、消費行為における他者性（差異性）を指摘している。このような先行研究の整理の上で、当初方向性の定まらない「未分化の内的エネルギー」が外部からの影響により方向づけられることで明示的な欲望となり、その欲望を達成した成果に外部賛同を得ることで満足感が発生すると認識が示された。このような欲望の特性から、新しい消費の定義として、消費を脳に刺激を与え情報提供する全ての行為と提唱している。

結論的には、今後の消費社会をプロデュース型と位置づけ、社会との関わりにおいて価値創造に加わることで、それにより生じる情報交流ネットワークが、「未分化のエネルギー」を充足させること、金銭に依存しない生活充足のあり様が老後社会への不安を軽減させることが示されている。さらに、プロデュース型消費社会では、企業経営でもこうした消費者との共創を考慮したビジネスの展開が求められると結論付けている。

文献の展望やデータによる検証という点ではやや十分とは言えない点文献の展望やデータによる検証という点ではやや十分とは言えない点も指摘できる。また政府への政策提言部分についても一部に飛躍した議論も散見される。しかし、テーマの斬新性、各章および論文全体の論理展開、新たな拡張された消費の定義、プロデュース型消費社会の到来など、今後に向けた消費社会の変貌を明らかにし、その課題と解決の方向性を考察した本論文の学術的かつ社会的意義は高く評価できる。以上の点から、本論文は本学博士号を授与するに値すると判断した。